

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3272200472		
法人名	社会福祉法人あま福祉会		
事業所名	グループホーム諏訪苑		
所在地	島根県隠岐郡海士町大字海士3964番地		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokounyuu.jp/katgostp/information/public.do?JGD=3272200472&amp;SCD=370&amp;PCD=32">http://www.katgokounyuu.jp/katgostp/information/public.do?JGD=3272200472&amp;SCD=370&amp;PCD=32</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成24年3月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者主体のケア提供、グループホームも小さな地域社会といった視点での地域交流。これらを職員皆で共有し取組んでいる。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「利用者主体のケア」を目標に取り組み、利用者と職員の意見交換の場「二十日会」を設けて利用者の思いや意向、暮らし方の希望を積極的に聞き日々の実践の中に活かしている。管理者は、利用者に公民館活動や小学校の生涯学習等の情報を提供し、利用者の思いや希望を実現させるために地域関係者に協力をお願いしたり、一人で出掛けることが出来るよう地域の方と見守りながら支援している。小学校の生涯学習の将棋の授業では利用者が先生となり指導している。児童との交流を通して利用者は教える事に生きがいを感じている。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の事業計画作成時に、理念の振り返りと再確認を行い、日々の業務や計画、勉強会などを通して、理念の共有を行っている	毎年、全職員で理念の振り返りと確認を行い、職員会議で利用者が「今一番望む事は何か」を話し合いながら日々理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館、学校、図書館、商店等と連携を図りながら、利用者が地域活動に参加し、地域住民と繋がりを持つよう協力と理解を求めている	利用者が図書館や買い物、公民館活動に出掛ける時は地域の人に協力をお願いし、地域での生活を共に支える関係を作っている。産業文化祭には毎年、利用者の作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回のグループホーム便りを町内全戸に配布し、日常生活の様子や認知症についての情報発信を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画の進捗状況の報告を行い、避難訓練や事故防止についての意見交換を行い、サービスの向上に活かしている	利用者の生活や活動を報告し意見交換や情報交換をしている。災害対策やケアプラン作成などについても話し合い、「生活の場」としての事業所のあり方を共有しながらサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席をとおして、施設の取組みを理解してもらい、利用者が地域と繋がりを持つことが出来る機会の情報提供をしてもらっている	利用者が参加可能な公民館のクラブ活動や行事などの情報を提供して貰ったり、認知症の人のサポートを町全体で取り組む協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての取扱い要領もあり、身体拘束をしないケアの実践に努めてはいるが、全職員が正しく理解するには至っていない	月一回の検証会と職員会議で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについてはその都度話し合いをしている。玄関は開放されていて利用者は自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修会で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもち、日々のケアの中で「不適切なケア」がないか等、申し送りや検証会で話し合いを行い高齢者虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての研修、理解は十分に出来ていない。また活用が出来るような支援体制も十分ではない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の実施に当たっては、事前に訪問や面談を行い、利用者や家族等に十分な説明を行い、理解と納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時、面談日等に家族から意見・要望を頂けるよう工夫をしている。年度初めには、家族へのアンケート調査を実施した 毎月20日に「二十日会」と称し、利用者と職員の意見交換の場を設けている	利用者の要望を聞く日「二十日会」を設けたり、家族アンケートの実施、面会時や諸行事の後などに機会を設け家族の意見を聞く努力をしている。家族の意見は運営推進会議でも報告し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の月例会(職員会)、申し送り時に、各部門間で行われる企画会の報告を兼ね意見交換を行っている	管理者は自分の経験などを話しながら意見を言いやすい雰囲気を作り、出された意見は月例会や企画会で検討している。職員の提案で利用者の希望のメニューを取り入れるなど意見をサービスに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	魅力ある職場づくりを目指し、キャリアパスの明確化・OJT中心の人材育成・人事考課について仕組みを検討中		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のキャリアに合わせた研修参加やケアマネ、介護福祉士など資格修得の援助を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学を通してサービスの向上に向けている。他は、管理者、各職員が外部研修をとおしてネットワーク作りや意見交換を行い個人でのサービスの質の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報を基に、面談を繰り返しながら本人に安心していただけるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に得た情報を基に面談を行い、家族の要望や不安を理解できるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で聴き取りをし、本人の必要としているサービスを浮き彫りにし支援をおこなっている また、居宅支援事業所と連携しながら、必要であれば他のサービスについての検討にも対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月1回、利用者と職員の意見交換の場を設け、一緒に暮らす者同士としての関係作りを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での暮らしぶりを知っていただくため定期的にファミリー通信の発行を行っている。 また、家族と一緒に過ごせる機会をつくったり、ケアについても、利用者と家族との繋がりの重要性を説明し、理解と協力を得られるよう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加、友人との関係が途切れないように援助している	墓参り、神社、地域の盆踊りの見物など馴染みの関係が継続できるよう支援している。保育園児と交流を行うなど新たな関係作りにも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業、レクリエーション等とおして、利用者同士が関わりあえるよう時間をつくり、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った利用者に面会に行ったり、来てもらったりする関係はあるが、本人や家族への相談などのフォローについてはおこなっていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の言葉や仕草から思いや意向をくみ取るよう努め、利用者との意見交換会(20日会)において、それらを把握するよう努めている	日々の生活の中での会話、飲茶事や「二十日会」で利用者の思いや意向を聞いている。利用者の「自分が作ったしめ飾りを地域の人や職員に配りたい」との思いを活かして支援するなど、思いを実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聴き取り調査を基に、日々の生活の中で本人や家族からの会話から把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望や持っている力を活かせることが生活の基本と考え、日々の申し送りや検証会の中で、それらを把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聴き、他職種と連携し検討会を行い、介護計画を作成している	利用者、家族の意見を取り入れ検証会で全職員で話し合い、介護計画を作成している。職員は毎月の検証会で見直しをし申し送り票で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は日誌に記載し、申し送りや検証会で情報を共有し、介護計画の見直しや実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体的な変化があった場合には、暫定の介護計画を作成し、状況に応じて対応するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や教育委員会などの協力を得て、本人の力が発揮できる場所を提案していただき、楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所のそれぞれの主治医が週1回の定期検診及び緊急時の対応を行っている。また遠方にかかりつけ医がいる場合は電話で指示をもらい定期的に受診したり、診療所と連携を図れるよう支援している	定期受診や受診の支援を行い、島外での受診は家族が支援している。緊急時には近くの診療所の主治医の指示を受け、速やかな対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所主治医の定期検診時に主治医・看護師に日々の情報等を伝え、適切な診療を受けられるよう相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援方法など必要な情報を提供し、回復時には、家族も含め、病院関係者と情報交換をおこない、速やかに退院ができるよう関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針については見直し、検討中であるが、利用者の状態変化に合わせ、本人家族との話し合いを行い、希望や要望を取り入れながら、本人にとって最も良い生活の在り方を地域の関係者とも共有できるよう話し合いの機会を作っている	利用者の希望を取り入れながら随時、家族と話し合いを行っている。現在、看取りについての指針を作成中である。	職員の研修や勉強会などの支援にも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備されているが、定期的な訓練、研修は十分とは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を消防関係者及び地域とも連携しながら行っている	消火器等の定期点検も行なわれ、今年度はスプリンクラーの設備も完了し、消防署との合同訓練と事業所独自の訓練も二回行った。地域の人の協力は今後の課題となった。	さまざまな事態を想定した訓練を継続されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の訴えなどに対し、否定的な言動をとらず、一度は受け止め、指示や命令語を避けるよう、職員同士で不適切な行動を注意しあいながら対応している	顔見知りが多いので、慣れからくる言葉の使い方に注意している。利用者が自己決定出来る機会を作り利用者を尊重したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月1回の職員との意見交換会や月2回の献立作りなど、本人が希望や思いを表出することが出来る機会を設け、本人が自己決定出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを理解したうえで、利用者からの希望や思いを優先できるよう、職員間で話し合いをおこない、柔軟な対応が出来るよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや外出時には、利用者と一緒に選び、身支度を手伝いながら、似合う、きれいなど気分が高まるような声かけを行い、おしゃれを楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜作りをし、収穫した野菜でメニューを考えたり、誕生日、希望メニュー、家族との食事会での献立を考えたり、日々の準備、食事、後片付けも利用者と職員が一緒に行っている	希望のメニューを取り入れたり、「収穫祭」では収穫した野菜を使って利用者、家族、職員と一緒に食事作りを楽しんでいる。職員も共にテーブルを囲み和やかな雰囲気作りをしている。お替りをする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量は1200ccを目標にして、お茶やポカリスエット、茶ゼリーなど好みや状態に合わせて工夫している。食事についても、状態に合わせて、細かく刻む、柔らかくする、ペースト状にする等食べられるように工夫している また、不足している栄養量については補助食品で補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。ケアについても、状態に応じ、個別に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、排泄パターンをチェックし、定期的にトイレ誘導と声かけを行っている	排泄は自立への第一歩と考えて取り組み、利用者全員の排泄パターンを把握している。定期的な誘導と声掛けで日中、夜間もトイレで排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と乳製品の摂取、散歩、レクリエーション家事作業等で体を動かすことで自然排便が出来るように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に入浴時間を設けているが、利用者の希望を聴きながら、利用者に合わせ昔からの地域の風習も取り入れながら楽しんでもらえる工夫をしている	声掛けやタイミングを工夫しながら支援し、午前中に入浴希望があれば柔軟に対応している。利用者は菖蒲湯や好きな民謡を聞きながらの入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、そばに付き添いお茶を飲んだり、話をしたりしながら安心してもらえるように支援し、眠れなかった場合には、日中休んでもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイリングし、いつでも職員が確認できるようにしている。症状の変化については記録し、申し送りで行い、異常時には主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事作り、ゴミだし、畑作業、火災予防のための見回りなどそれぞれに役割が出来ており、また本人の得意とすることで地域の活動に参加できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回遠足を計画し、島外へ出かけている。公民館活動への参加、他施設訪問、買い物などいずれも家族や地域の方々に協力してもらいながら支援している。本人の希望で一時帰宅や散歩、ドライブ等、日常的に外出の支援を行っている	利用者は散歩、公民館活動の囲碁、買い物など、職員や地域の人々の見守り協力を得ながら外出をしている。畑で野菜作りを楽しむ利用者や、畑までの散歩を楽しむ利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理に多少問題のある利用者については、職員と一緒に随時確認することで安心感や満足感につなげ、お金を所持、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話することが出来るよう支援し、手紙が届いたときには、返事を書いて送るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓や大きな窓から差し込む光や、地域を一望することが出来、落ち着ける空間となっている。 季節感を感じてもらえるような工夫も行っており、利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごしている	ホールには大画面のテレビが置かれ、段飾りのお雛様や壁面には利用者の作品などが飾られている。面会時や、利用者同士が囲碁将棋を楽しみながら思い思いに過ごせる空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳コーナー、炬燵など居場所づくりをおこなっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や畳を置いたり本人の希望するものを家族に持ってきてもらい居心地良く過ごせるよう工夫している	使い慣れた家具が置かれ、好きなカレンダーや家族の写真を飾ったり、テレビ、ビデオデッキ、絵手紙作りの道具などを持ち込んで利用者に合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくす、手すりをつける等して安全に移動できるよう工夫され、テラスから外に出られるように工夫している		